

県民意見整理台帳

○ 意見募集期間 令和4年7月28日(木曜日)～令和4年8月28日(日曜日)

○ 意見募集の結果 意見提出件数 49件
意見提出者数 8人・1団体

○ 意見内容の概要

区分	延べ件数
1:生活・環境	7
2:産業	7
3:人材育成・共創の場	26
4:全般・その他	16
計	56

※1～3の分類にまたがる意見が7件あったため、延べ件数は56件となっています。

○ 県の考え方の概要

区分	延べ件数
A:大綱に反映する意見	21
B:意見の趣旨が既に大綱に反映されている意見	25
C:今後の参考とする意見	3
D:大綱に反映できない意見	0
計	49

政策局いのち・未来戦略本部室

意見の内訳(意見分類): 1 生活・環境/2 産業/3 人材育成・共創の場/4 全般・その他

意見の反映状況(反映区分): A 大綱に反映する意見/B 意見の趣旨が既に大綱に反映されている意見/C 今後の参考とする意見/D 大綱に反映できない意見/E その他

意見番号	意見分類	意見要旨	反映区分	県の考え方
1	1・2	黒岩知事の科学技術政策ではヘルスケアへの重点化イメージが強かったが、7期の大綱では環境、エネルギー、ロボット等の最終的には県民の生活やいのちにつながる工学的な課題に取り組む方向性がクリアに出されてるのが興味深い。	B	神奈川県発の科学技術によるイノベーションを起こし活用していく取組によって、科学技術の成果を地域に展開し、県民の皆様に向けていくことを目指し、科学技術政策の推進に取り組んでまいります。
2	1・2	是非ともカーボンニュートラルを推進していただきたい。	A	重点研究目標に「脱炭素」を取り上げ、大学や企業、研究機関等との連携を図りながら、重点的な研究活動を展開してまいります。
3	1・3	現在、日本において、基礎研究が疎かにされていると感じている。	B	県が行う地域課題の解決等に向けた基礎-応用研究活動を引き続き着実に実施していくとともに、基礎研究とその推進人材への投資については、国の環境整備と連携しながら、県としても共創の場の形成に努めてまいります。
4	1・3	基礎研究にお金をかけないので、研究者たちは中国などの国へ行ってしまい、どんどん優秀な頭脳が流出してしまう、と考えるととても恐ろしい。神奈川県においても、最先端の研究を行う試験研究機関が設置されているのだから、イノベーションが起きよう十分な投資をすべきだと考える。もちろん成果も込みで公表していただきたい。	B	県が行う地域課題の解決等に向けた基礎-応用研究活動を引き続き着実に実施していくとともに、基礎研究とその推進人材への投資については、国の環境整備と連携しながら、県としても共創の場の形成に努めてまいります。
5	1・2	基本目標について、1番目に地域経済の活性化、2番目に地域社会の実現を位置付けるのが普通だと思われるが、あえて1番目と2番目とを入れ替えているのは、なるほど、と納得した。	B	3つの基本目標の記載順は順序を付けているものではなく、それぞれの目標を着実に実現していくことで、「豊かな未来社会創り」ひいては「いのち輝くマグネット神奈川」を実現することを目指してまいります。
6	1	自分は地域で防災士として活動している。今般、改訂予定の「科学技術政策大綱骨子案」の重点研究目標に「防災・減災」が入っているのは良い着眼点だと思った。	B	科学的アプローチに基づく課題解決により、安全・安心で豊かな生活・環境を県民が実感できる地域社会の実現を目指してまいります。
7	1	日本は災害の多い国のため、是非とも、いのち・未来戦略本部室において、基礎研究、応用研究、実用化研究の各研究段階で、国の研究所等と連携し、防災・減災におけるイノベーションを起こしていただきたいと考える。	B	科学的アプローチに基づく課題解決により、安全・安心で豊かな生活・環境を県民が実感できる地域社会の実現を目指してまいります。

意見の内訳(意見分類): 1 生活・環境/2 産業/3 人材育成・共創の場/4 全般・その他

意見の反映状況(反映区分): A 大綱に反映する意見/B 意見の趣旨が既に大綱に反映されている意見/C 今後の参考とする意見/D 大綱に反映できない意見/E その他

意見番号	意見分類	意見要旨	反映区分	県の考え方
8	2	特に粘り強い努力を要するイノベーションを原動力とすることが、長期的視野で未来を見据えると重要であり、これが県の施策としてしっかりと示されている点は評価できると思う。	B	神奈川県発の科学技術によるイノベーションを起こし活用していく取組によって、科学技術の成果を地域に展開し、県民の皆様に向けていくことを目指し、科学技術政策の推進に取り組んでまいります。
9	2・3	地域大学や公設試、企業との連携した共創の場を実現し、神奈川県から、全国、海外へ発信できる政策としていただくことに期待する。	B	大学や企業及び自治体が、社会と共に歩みながら、「ビジョンを共有し科学技術で未来を担っていく場」を形成し、神奈川県発の技術を世界に展開できるよう取り組んでまいります。
10	2	「科学技術政策大綱」というのでイメージとしてはベンチャー系のことが盛り込まれているのではないかと思って読んだが、基礎的なことが書いてあるのが意外だった。	B	県政運営を科学技術の面から支えるため、科学技術政策の基本的な方向を示す大綱を改定し、科学技術政策に取り組んでまいります。
11	2・3	基本目標2で地域経済の活性化、基本目標3で人材育成について記載しているが、これらの基本目標について、県は政令市を政策の対象として見ているのかが分からなかった。	A	地域における科学技術振興については、国や市町村との連携・協働が不可欠です。
12	3	神奈川県科学技術政策大綱の中の研究者・技術者の育成は大切な視点だと思われる。	B	失敗を恐れず挑戦し続ける「人」を評価し、失敗を許容し、再挑戦を促すことができる環境の整備と、社会文化の形成を目指してまいります。
13	3	いくら優秀な人材を育成しても、その能力が十分に発揮できる環境が一般化していなければ、志望者も集まらないし、そもそもがこの大綱の目的を達成する最低条件が満たされないのではないかと思う。そのためには研究者や技術者を短期的に成果を上げれば構わないというような、商品価値みたいな要素のみを考えた雇用の仕方を研究機関や企業が採用することはかなり長い視点ではデメリットがあると思う。	B	失敗を恐れず挑戦し続ける「人」を評価し、失敗を許容し、再挑戦を促すことができる環境の整備と、社会文化の形成を目指してまいります。
14	3	施策の基本的な方向に「イノベーション人材が輝く共創の場を実現する科学技術活動の展開」が入っているのは良いと思う。	B	失敗を恐れず挑戦し続ける「人」を評価し、失敗を許容し、再挑戦を促すことができる環境の整備と、社会文化の形成を目指してまいります。
15	3	基本目標3で「失敗を許容し、再挑戦を促すことができる環境の整備」を記載してあるのが印象的だ。	B	失敗を恐れず挑戦し続ける「人」を評価し、失敗を許容し、再挑戦を促すことができる環境の整備と、社会文化の形成を目指してまいります。

意見の内訳(意見分類): 1 生活・環境/2 産業/3 人材育成・共創の場/4 全般・その他

意見の反映状況(反映区分): A 大綱に反映する意見/B 意見の趣旨が既に大綱に反映されている意見/C 今後の参考とする意見/D 大綱に反映できない意見/E その他

意見番号	意見分類	意見要旨	反映区分	県の考え方
16	3	研究者や技術者も、商品ではなく、一人一人が大切な人生、生活あるいは家族を持った、かけがえのない存在であることを、この大綱はどこまで認識して作成されたものなのか。少なくとも彼らを短期雇用などの非正規、あるいは委託契約などの生活を不安定にするような身分にしてしまうことを規制する部分が、この大綱に盛り込まれていないとするならば不十分なものであると断言せざるを得ない。労働部などにこの視点からの施策を至急提言いただくなどの処方を考察していただくことを望む。	C	雇用形態に関する規制については、国で一律に検討すべき事項であり、県独自に大綱に反映することは難しいですが、県では研究者や技術者に限らず、労働者全般について正規雇用等、希望する形態での雇用がされるよう取組を進めており、ご意見については、今後の参考とさせていただきます。
17	3	ぜひ、科学技術分野での女性の活躍につながる取り組みを組みこんでいただきたい。	A	科学技術分野で女性も活躍できる環境の整備と、社会文化の形成を目指してまいります。
18	3	本骨子にも記載されているように科学技術は日本を支える骨子であり、今後も発展させていくことが必要だが、現時点において、理系分野での女性の活躍は少ないものと言わざるを得ない。	A	科学技術分野で女性も活躍できる環境の整備と、社会文化の形成を目指してまいります。
19	3	私は、神奈川県と協働で科学の楽しさや素晴らしさ体験できる人材育成事業を行ったことがあり、幼稚園児や小学生は性別に関係なく科学や理科に対する興味を持っていることが経験上分かっている。その興味自体は性別関係なく中学生でも持続しているように感じられる。しかし、高校生になって”将来ビジョン”を考える段階に入ると、女子生徒の理系への進路希望が著しく減少する。これは、例えば「電気」、「機械」、「土木」分野などでの女性の活躍がイメージできないからではないか？その一方、私が専門とする「化学」やその他も「生物」、「建築」などの分野では3～4割程度の子学生が在籍している。これは、その「分野」に進んで、自分の将来がイメージできるかが大事なのではと思っている。	A	科学技術分野で女性も活躍できる環境の整備と、社会文化の形成を目指すとともに、科学技術分野での女性の活躍を推進するほか、子どもたちの科学への興味・関心を高めるなど、次世代の科学技術を担う人材の育成に取り組んでまいります。
20	3	令和5年度～令和8年度の大綱なので、ぜひ、科学技術分野で女性が活躍できるような教育と場の提供(人生設計のビジョンに繋がるような)を組み入れることを検討してほしい。	A	科学技術分野で女性も活躍できる環境の整備と、社会文化の形成を目指すとともに、科学技術分野での女性の活躍を推進するほか、子どもたちの科学への興味・関心を高めるなど、次世代の科学技術を担う人材の育成に取り組んでまいります。

意見の内訳(意見分類): 1 生活・環境/2 産業/3 人材育成・共創の場/4 全般・その他

意見の反映状況(反映区分): A 大綱に反映する意見/B 意見の趣旨が既に大綱に反映されている意見/C 今後の参考とする意見/D 大綱に反映できない意見/E その他

意見番号	意見分類	意見要旨	反映区分	県の考え方
21	3	次代を担う子供向けの科学技術に対する興味喚起等はとても重要なことと共感する。	A	子どもたちの「理科離れ」への対応など、次世代の科学技術を担う人材の育成に取り組んでまいります。
22	3	資金に関する問題意識について、国の科学技術・イノベーション基本計画では、人材育成や研究開発に必要な資金に対する問題意識が記述され、大学ファンドなどの資金に関する政策が記述されている。神奈川県の大綱では、科学技術の開発、普及等に必要な資金に関する記述がほぼなく、施策の実効性や県の独自性が不明瞭である。	A	ご意見については、県事業を基盤としながら、国等の競争的資金や金融機関との連携、クラウドファンディングや民間ファンド資金など、多様な資金調達方法を検討し、持続可能な施策の展開を目指していくことを施策の展開に当たっての留意点として記載いたしました。
23	3	ロボットや未病の取組はこれまで数年間の実績があり、様々な意見や要望等が出ていると思う。この部分が欠けると、序章の問題意識や「(3)イノベーション人材が輝く共創の場を実現する科学技術活動の展開 エ 関係者がビジョン・課題を共有し、共に取り組む競争の場の形成」という方向から外れてしまう。	B	ご意見については、科学技術に係る活動やその成果について、多様な発信手法や媒体を活用し、正確かつ積極的に情報発信するとともに、対話型の科学技術活動など研究者と県民を繋ぐ双方向のコミュニケーション活動を推進してまいります。
24	3	社会全体の科学技術リテラシーの向上について、大綱案は、基本的に科学技術の先端や中核を担う研究所、企業等を念頭に置いた施策をまとめている印象がある。	A	シチズンサイエンスのような県民参加型の取組や、新たな仕組みづくりなどのような対話の取組を重ねることで地域社会の科学技術リテラシーの向上を図り、科学技術への共感と信頼を醸成することで、県民一人一人がその成果をより実感できる社会の実現を目指してまいります。
25	3	科学の専門化・細分化が進むことで、科学を理解できる人の対人口割合が少なくなることも懸念される。特に、教育機会がない社会人は、科学技術リテラシーをアップデートしないまま、様々な課題や政策に直面する。この大きな問題は、科学的エビデンスに基づく政策議論ができず、近視眼的で大衆迎合型のナラティブに誘導されてしまい、問題解決が進まない膠着状態を生み出すことである。	A	シチズンサイエンスのような県民参加型の取組や、新たな仕組みづくりなどのような対話の取組を重ねることで地域社会の科学技術リテラシーの向上を図り、科学技術への共感と信頼を醸成することで、県民一人一人がその成果をより実感できる社会の実現を目指してまいります。
26	3	リカレント教育やリスキリングなどの仕事に活かせる学び直しや、教養を高める生涯学習などの分野でも、科学技術リテラシーを向上させる取り組みを増やしていけないか。施策への落とし込みはともかく、問題意識として序章に加筆等いただければと思う。	A	シチズンサイエンスのような県民参加型の取組や、新たな仕組みづくりなどのような対話の取組を重ねることで地域社会の科学技術リテラシーの向上を図り、科学技術への共感と信頼を醸成することで、県民一人一人がその成果をより実感できる社会の実現を目指してまいります。

意見の内訳(意見分類): 1 生活・環境／2 産業／3 人材育成・共創の場／4 全般・その他

意見の反映状況(反映区分): A 大綱に反映する意見／B 意見の趣旨が既に大綱に反映されている意見／C 今後の参考とする意見／D 大綱に反映できない意見／E その他

意見番号	意見分類	意見要旨	反映区分	県の考え方
27	3	将来の研究者を育てるための、また、科学的な物の見方を普及させるための、科学技術の情報発信はとても重要だと考える。	A	シチズンサイエンスのような県民参加型の取組や、新たな仕組みづくりなどのような対話の取組を重ねることで地域社会の科学技術リテラシーの向上を図り、科学技術への共感と信頼を醸成することで、県民一人一人がその成果をより実感できる社会の実現を目指してまいります。
28	3	ネット社会になり、全く科学的根拠のないことがまことしやかに流布され、それを信じてしまう大人も多いと感じている。	A	シチズンサイエンスのような県民参加型の取組や、新たな仕組みづくりなどのような対話の取組を重ねることで地域社会の科学技術リテラシーの向上を図り、科学技術への共感と信頼を醸成することで、県民一人一人がその成果をより実感できる社会の実現を目指してまいります。
29	3	総合知の形成について、総合知について触れられている点は素晴らしいと思う。定義や評価が難しい概念だが、その重要性は共通理解を得られるものと思う。	B	理工系に加えて人文科学も含む「科学技術の推進・活用・社会創りの俯瞰的な視点＝総合知」を大切にし、科学技術力を結集・活用しイノベーションを起こしていくことのできる人材が輝く共創の場の形成を目指してまいります。
30	3	総合知を具体的な施策にどう落とし込んでいくか、先行事例の研究が必要ではないか。	B	ご意見については、基本目標3「課題解決と未来創生に挑戦するイノベーション人材が輝く共創の場の形成」として総合知を大切にしながら取り組むことを記載しています。また、施策に関わるご意見については、今後の施策運営の参考とさせていただきます。
31	3	共創の場の形成にあたっては、経営学や社会学などのバックグラウンドをもつ人材と科学・工学などのバックグラウンドをもつ人材がそれぞれの強みを発揮できるようにするデザインが重要と考える。さらに、このようなアプローチから創発された知識をできるだけ形式知化していく取り組みも必要である。総合知の創出については、これらのプロセスを可視化し、EBPMを繰り返していく動的な概念が有効ではないか。	B	ご意見については、基本目標3「課題解決と未来創生に挑戦するイノベーション人材が輝く共創の場の形成」として、理工系に加えて人文科学も含む「科学技術の推進・活用・社会創りの俯瞰的な視点＝総合知」を大切にしながら取り組むことを記載しています。また、施策に関わるご意見については、今後の施策運営の参考とさせていただきます。

意見の内訳(意見分類): 1 生活・環境／2 産業／3 人材育成・共創の場／4 全般・その他

意見の反映状況(反映区分): A 大綱に反映する意見／B 意見の趣旨が既に大綱に反映されている意見／C 今後の参考とする意見／D 大綱に反映できない意見／E その他

意見番号	意見分類	意見要旨	反映区分	県の考え方
32	3	県の役割は「科学技術」と「人・社会」との間を繋いだ後のプロセスを形式知化し、今後の科学技術政策に活かしていくことと考える。現在のところ、本大綱ではこれらの総合知を形式知化する主体が描かれていないため、ぜひ県の役割りとして記述いただきたい。	A	神奈川県自らによるコーディネートの視点として、多様な活動主体の間の組織・分野の壁を乗り越えていく総合調整や科学技術の成果を社会(行政)で総合的に利活用していくコーディネート活動を神奈川県が主体となって推進していくことを記載いたしました。
33	3	ここ数年、コロナ禍でイベントなどできなくなってしまったが、感染防止対策を万全にして、もっと科学に触れる機会を、特に子どもたちに増やしてほしい。	B	夏休み期間中の科学イベントや県内のおもな科学技術イノベーション拠点を紹介する「かながわサイエンスサマー」などを活用しながら周知に努め、科学技術に触れる多様な機会を提供してまいります。
34	4	P12最後の行に、がんセンター臨床研究所の研究学部が記載されているが、地方独立行政法人神奈川県立病院機構組織規程では、「がん免疫療法研究学部」の前に「がん予防・情報学部」となっているため、記載順を入れ替えていただきたい。	A	ご指摘の通り記載順を入れ替えさせていただきます。
35	4	本骨子の旨は大いに賛同できる内容だ。	B	神奈川県発の科学技術によるイノベーションを起こし活用していく取組によって、科学技術の成果を地域に展開し、県民の皆様に向けていくことを目指し、科学技術政策の推進に取り組んでまいります。
36	4	色々な意味で徐々に沈みかけている日本において、日本の縮図ともいわれる神奈川県から、他県のモデルとなる効果が生まれてくることを期待する。	B	大学や企業及び自治体が、社会と共に歩みながら、「ビジョンを共有し科学技術で未来を担っていく場」を形成し、神奈川県発の技術を世界に展開できるよう取り組んでまいります。
37	4	基本目標1、2を基本目標3が支えるような構成になっており、そのための基本目標3に係る施策やそれを基本目標1、2につなげるための施策が分かりやすく示されていると感じた。	B	3つの基本目標を掲げ、社会との対話の視点を大切にしながら科学技術イノベーションを推進し、その成果を社会に実装していくことで「豊かな未来社会創り」ひいては「いのち輝くマグネット神奈川」を実現することを目指してまいります。
38	4	もっと現場の泥臭い話を書いてあると思ったが、格調が高く意外に思った。	B	基本目標の実現に向け、現場に近い県試験研究機関を軸としながら取り組んでまいります。
39	4	もっと施策事業を色々書いてあるものだと思っていた。	B	県政運営を科学技術の面から支えるため、科学技術政策の基本的な方向を示す大綱を策定いたしました。施策事業については、施策の基本的な方向を踏まえて県が取り組む施策例を明示し、取り組んでまいります。

意見の内訳(意見分類): 1 生活・環境/2 産業/3 人材育成・共創の場/4 全般・その他

意見の反映状況(反映区分): A 大綱に反映する意見/B 意見の趣旨が既に大綱に反映されている意見/C 今後の参考とする意見/D 大綱に反映できない意見/E その他

意見番号	意見分類	意見要旨	反映区分	県の考え方
40	4	第4章にスペースが割いてある、割かれるだろうというのは良いと思う。	B	県政運営を科学技術の面から支えるため、科学技術政策の基本的な方向を示す大綱を策定いたしました。施策事業については、施策の基本的な方向を踏まえて県が取り組む施策例を明示し、取り組んでまいります。
41	4	序章「神奈川の科学技術を取り巻く状況」等の記載からは、科学技術政策大綱に総合計画的というか、構想的な位置付けのものだと伝わってきた。	B	県政運営を科学技術の面から支えるため、科学技術政策の基本的な方向を示す大綱を改定し、科学技術政策に取り組んでまいります。
42	4	骨子案には記載はないが、県の科学技術政策大綱の進捗管理にKPIを設定するのか、に関心がある。	A	施策の進捗状況を把握し、改善に結びつけるための指標を選定し、定量的な把握に努めてまいります。
43	4	県の役割について、「(1)地域活力の形成と地域社会への貢献」及び「(2)国内外との交流・連携・展開」を読むと、県にはコーディネーターとしての専門性があるという前提が必要である。しかし、県組織の科学技術に関する専門性や、地域とのコミュニケーションについての実績や施策例が明確ではない。	C	ご意見については、今後の施策運営の参考とさせていただきます。
44	4	国であれば、JST内の「研究開発戦略センター」が研究開発の俯瞰報告書を出しており、国内外の幅広い科学技術動向を俯瞰している。まずはこのような機関の発行物を参照し、国や民間研究機関等との役割分担等を明確にしたうえで、神奈川県の特徴に沿った科学技術政策を位置づけてはどうか。	C	ご意見については、今後の施策運営の参考とさせていただきます。
45	4	施策の基本的な方向について、序章の最後に記述されている「科学技術イノベーション・エコシステム」と「施策の基本的な方向」の関係性について、図式してはどうか。	A	地域における科学技術イノベーション・エコシステム構築の視点についても、今後の施策の展開にあたって県が軸とする視点や考え方として示してまいります。
46	4	ヘルスケア・ニューフロンティアの事例が掲載されているが、個別の事例を掲載する場合は、施策の基本的な方向に沿い、人材育成や資金、市場化の蓋然性など、社会科学的なエビデンスを示して掲載すると、より科学技術政策大綱としての信頼性が高まると思う。	A	ご意見のエビデンスについては、附属資料の中で示していけるよう努めてまいります。

意見の内訳(意見分類): 1 生活・環境／2 産業／3 人材育成・共創の場／4 全般・その他

意見の反映状況(反映区分): A 大綱に反映する意見／B 意見の趣旨が既に大綱に反映されている意見／C 今後の参考とする意見／D 大綱に反映できない意見／E その他

意見番号	意見分類	意見要旨	反映区分	県の考え方
47	4	ヨーロッパをはじめ、日本でもミッション志向の研究開発がうたわれだしている。これらの流れを踏まえると、何をミッションとすべきかを社会との対話で位置付ける必要がある。本大綱の施策の基本的な方向について、社会(県民)との対話の中で示されたものであるか、記述してはどうか。	A	「科学技術」と「社会」の対話の視点について、今後の施策の展開にあたって県が軸とする視点や考え方であることを共通認識として示してまいります。
48	4	神奈川県による地域の大学・企業等との連携・協働の活動について、科学技術政策を推進する上で必要な科学的助言について、県の考え方をより具体的に記述してはどうか。現在の記述では、県庁組織の自己判断で運営されるような印象がある。現実的には、未病やSDGsなどには専門家を入れて取り組んでいると思うので、この辺りを例示するとわかりやすい。	A	科学技術政策の推進について、外部有識者会議とも議論しながら施策を展開していくことを記載いたしました。
49	4	県には7つの試験研究機関があり、県内3政令市の試験研究機関との一層の連携・協働を深め、互いに切磋琢磨した環境の中で研究を推進することにより、地域社会・地域経済の発展に向けた成果・知見の蓄積に努めていく必要もあると考える。今回の大綱では触れられていないようだが、もし改定の趣旨に合うようであれば、少し追記していただくことも考えられるのではないかと。	A	政令市を含む市町村と連携・協働しながら、県が実行力をもって科学技術政策を推進してまいります。